



# 青南だより

令和8年3月号  
港区立青南幼稚園  
園長 石川 典子

## あと伸びする幼児教育

今年度残りわずかとなりました。幼児はこの1年間、園で「人・もの・こと」すべての環境に関り、直接体験である遊びや生活を通して、心身の調和のとれた発達と多様な学びができました。「乳幼児の頃からの質の高い教育がその時期の発達にとって重要であり、その後の人生において長期にわたって多面的に良い効果をもたらす」ことが明らかにされています。本園で学んだ子どもたちに育まれた非認知能力は、進級・進学後、また将来にわたって子どもを支える基盤となります。

## 学びを支える生活の力

脳は大まかに分けて「3階建ての家」に例えることができるそうです。

- 1階…脳幹(生きるための脳) 呼吸・体温・心拍・睡眠・覚醒など = **生活習慣**
- 2階…大脳辺縁系・大脳基底核(感じる脳) 喜怒哀楽、味、匂い、感情、短期記憶など
- 3階…大脳(考える脳) 論理的な物事の判断、人とのコミュニケーション、意欲的な物事の遂行、諦めない粘り強さ、自分の気持ちのコントロール、  
試行錯誤、思考、工夫など = **非認知能力**



3階の非認知能力を支えるためには、土台である1階の生活習慣が必要不可欠です。生活習慣がしっかりしていると、園生活や遊びにスムーズには入ることができ、友達とのいざこざも乗り越えることができる傾向があります。そして、「考える脳」を育てるのは「遊び」です。子どもが自分のしたいことにのめり込んで遊ぶ力を支える教育が、子どもの「考える脳(大脳)」を育てます。子どもが失敗ややり直しを繰り返し、「したいことができた」という感覚や、「夢中になって遊んだ」という経験が、後々の集中力や持続力に確実につながり、学びを楽しみ、人の気持ちが分かる子どもに育ちます。

## 学力・学習状況調査にみる生活習慣

「平成29年度学力・学習状況調査『保護者への調査結果』(文部科学省 平成29年)によると、規則正しい睡眠や起床を行っている家庭は、どの年代においても学力が高い結果が出ました。高い学力水準に位置する子どもの特徴を分析すると、家庭において規則的な生活習慣を整え、絵本の読み聞かせや、知的な好奇心を高めるような働き掛けを行っている特徴があり、学校教育(幼児教育)に対する親和的な姿勢が見られるそうです。

今年度も本園の教育へのご理解・ご協力ありがとうございました。進級・進学後も引き続きお子様の健やかな成長のために園や小学校の教育へのご理解・ご協力をお願いいたします。

令和7年度 港区立青南幼稚園経営計画 - 主体性を発揮して みんな笑顔の幼稚園 -

### (8)子どもたちの姿や育ち、教育資源を、保護者・地域と共有します。

幼児の教育は、幼稚園・家庭・地域で連続的に行われています。家庭・地域の皆様に、幼稚園の取組を理解していただき、幼児の姿や育ちを共有することは、幼児の望ましい発達の循環につながります。

(幼稚園経営計画 4 経営の重点 より)